

## K. M. 情報メディア学科・4年次

### I. 留学レポート

#### ① 留学決定から出発までの準備期間

少しでも大学の授業についていけるように、TOEFLの勉強や、海外ドラマのDVDを借りるなどして英語力を維持していました。イギリス英語に馴染む為に、イギリスのドラマを見たりもしましたが、英字幕さえなかったもので、当時は何を言っているか全くわからなかったので留学してもやっていけるかどうか不安でした。

#### ② 語学研修期間

Target processional 4a というコースにいました。(今はコース名が変わっているようです。) ここで正規の授業で必要とされる academic english を勉強しました。Essay の書き方や plagiarism の避け方、research method, report の書き方もやりました。Presentation や debate、seminar を実際に練習してみることもありました。このコースは Master や Phd (大学院) に行く人たちがほとんどだったので、英語だけでなく知識のレベルも非常に高く、ついていくのが大変でした。生徒の国籍はリビア、サウジアラビアなどのアラブ系の人々、中国人、台湾人がほとんどで、日本人の割合は比較的少なかったです。授業はなかなかハードでしたが、ここで出会えた様々な人種の人たちと友達になれたことはかなり貴重だったと思います。寮でも、フラットメイトが全員クラスメイトだったので宿題なども助け合ったり、一緒にご飯作って食べたり、週末買い物に行くなど充実していました。ここで出会ったフラットメイトたちとはコースが終わってからも、時間があればホームパーティをするくらい仲良しになりました。

#### ③ 正規科目履修期間

##### ◆ 履修科目

履修科目は協定留学が決定してすぐに手続きとともに、申し込みができます。授業が始まった二週間後までなら変更可能です。しかし、もう既に満員で入れないこともあるので気をつけたほうがいいです。私はアートやコミュニケーション、マーケティングなどの授業を取りたかったので、performance and cultural industry という department の授業を主にとっていました。

具体的にいえば、まずは”art marketing”。演劇や劇場に関するマーケティング戦略を考えました。マーケティングに必要な知識を art organization にどう生かすか。課題ではひとつの theatre をあげてマーケティングプランを考えるなどしました。

“managing event”ではイベントを運営するにあたってのプロセス・経営戦略など学びました。基本的にはビジネスの知識が必要なのですが、時にクリエイティブなアイデアなどがあると先生は喜びます。

“exploring musical”。ミュージカルの分析です。授業ではビデオでミュージカ

ルを見せてくれますが、ただ眺めるだけでなく、そのミュージカルの時代背景や音楽、演出方法など、毎回視点を変えてみるものが求められました。

“English for communication”。Language centre で行われる留学生用の単位がもらえる授業です。基本的に夏休みにやったコースと変わりません。というかむしろ簡単で退屈でした。

“fashion industry analysis”。Design 学科の選択授業です。この授業はほとんど先生はノートタッチで講義などほとんどなく、グループスタディでした。研究はほぼ自由に等しく、私たちはグループメンバーが全員アジア系（日本・韓国・中国）だったので某ラグジュアリーブランドのアジア人消費者のニーズと今後の戦略について手分けしてエッセイを書きました。

“Japanese Society”。リーズには日本語学科がありその最終学年の授業を取りました。内容は日本の現代社会の文化、教育問題など。日本人は私一人だけだったので、よく発言する機会がありました。それにしても、ここで学んでいる学生達は日本のことをよく知っているので感心させられました。また、彼らが抱く日本に対する疑問がすごく興味深く、そういった部分でおもしろい授業でした。

◆ 授業、レポート、定期試験

私が取った授業はほとんどエッセイを出すことで成績がつけました。しかし、managing event のクラスは定期試験期間中に「take away exam」という変わった試験がありました。朝にテーマが出され、一日でそのことについてのプランやアイデアをプレゼンするというものです。フォーマットは自由。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

Japanese society に入っていました。日本語を勉強している、あるいは日本に興味があるイギリス人がいるので話やすいし、友達もできやすいと思います。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

語学研修の間は lupton flat。正規の間は sent marks と leodis residences に住んでいました。Lupton と sent marks はキッチンとシャワーはシェアしなければいけません。Leodis はキッチンのみシェアです。寮は語学研修（夏休み）の間は lupton しか空いていません。正規科目履修期間は事前に希望を出すことができます。また気に入らなければ変更ができます。

⑥ 長期休暇の過ごし方

旅行に行きました。パリや南フランス、ポルトガル、スペイン、ベルギー、ウィーン。などなど、ヨーロッパの国を格安で旅行にいきます。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

就活サイトに登録して、企業を見るだけでした。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

一つだけあげるのが難しいくらい、一年いる間にあった楽しかったことはどれもいい思い出です。大好きなフラットメイトとたわいもない話を夜中までしたこと、1人で旅行したこと、友達とたくさんのパーティやクラブに行ったこと、などなど全てが忘れられない貴重な体験だったと思います。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

一番は言葉の壁です。言いたいことがいえなくて自信を失くしたときもありましたが、あまり何も気にせず肩の力を抜いて立ち向かったほうが意外とコミュニケーションはとれるということに気がつきました。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

店が5時か6時に閉まる。  
週末の昼は仮装してパブを飲み歩く。  
本当に頻繁に紅茶を飲む。

## III. 留学希望者へのアドバイス

### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は小さいけれど街が近く、すぐ買い物や遊びに行ける点。  
悪かった点はしいて言うならば、9月から日本人が増えた点。いい刺激にもなります。日本語を使う機会が増えてしまうのはあまりよくないですね。ここは自分次第だと思います。

### ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコン・スカイプ・歯ブラシ。イギリスの歯ブラシは大きすぎるので、子供サイズで十分だとおもいました。あと、日本語の参考書。何か勉強したいことが決まっているのであれば持っていったほうが絶対いいと思います。

### ③ 語学力の向上等、留学の成果

スピーキング・リスニングに関しては特にあがったと思います。留学前はイギリス英語全くわからなかったのに、今じゃアメリカ英語が聞きづらくらいです。ただTOEICなどの資格はやはりそれなりに勉強したほうがいい点数が取れるのではないかと思います。

### ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学したいという気持ちがあるのなら絶対にしたほうが良いと思います。また、留学期間は最低でも1年いるのではないかと思います。近年、様々なプログラムがあり半年だけの留学などもあるようなのですが、留学を延長した私としては全く後悔もありませんでしたし、むしろ延長した後あたりから語学も向上したような気がします。色々なことがありますが、全て最終的には貴重な思い出になると思います。

#### IV. 写真



Leeds 大学のメインビルとなる parkinson building です。ここで語学研修がありました。暇さえあれば、この中のカフェにいて必ず友達が誰かいたので自然と溜まり場になっていました。



Whitby という港町に daytrip してきました。小さくてかわいらしい街で、フィッシュアンドチップスもおいしく、充実した休日を過ごせました。